

データで読み解くデニシヨーン舞踊団のアジア巡演（1925年-1926年）：東京・上海公演の比較分析

名古屋大学大学院
人文学研究科 李 旒

1. はじめに

1925年から1926年にかけて、モダンダンス先駆者の一人であるルース・セント・デニス、夫であるテッド・ショーンと共に設立したデニシヨーン舞踊団を率い、アジア各地で大規模な巡演を行った。この巡演は、セント・デニスの生涯を語る上で欠かせない成果として記録されており、デニシヨーン舞踊団の活動の絶頂期とされている。これまで、デニシヨーン舞踊団のアジア巡演に関する研究では、日本やインドにおける交流活動や受容に焦点が当てられてきたが、中国におけるこの舞踊団の公演はあまり取り上げられてこなかった。本発表では、客観的な数字を用いながら、デニシヨーン舞踊団が東京と上海で行った公演を概観し、一行によるアジア巡演の実態の一端を明らかにすることを目的とする。

2. 1925年前後の東京と上海

「大正デモクラシー」、「大正ロマン」、「大正モダン」などの言葉が生まれた大正時代の日本は、好景気に恵まれ、都市部を中心に中間層が拡大した。これに伴い、西洋風の生活様式や新しい娯楽、芸術が大流行した。一方、1923年には東京を中心として、首都圏が関東大震災に見舞われ、壊滅的な被害を受けた。日本初の西洋様式劇場である帝国劇場もこの震災により一部が破壊され、翌1924年に再建されている。

これに対し、中国では1911年の辛亥革命を契機として民族意識が高まり、独立や社会変革を求める運動が活発化していた。このような激動の時代の中で、上海は移民都市として発展し、「東洋一の歓楽都市」となった。西洋の娯楽や芸術は歓迎され、オリンピック大戲院、カールトン影戲院、オディオン大戲院などを代表とする西洋様式の劇場が建築された。

3. デニシヨーン舞踊団による東京・上海公演

セント・デニスとショーンを中心とするデニシヨーン舞踊団によるアジア巡演は、興行主 A. ストローク (Awsay Strok, 1876年～1956年) の企画により実現した (井口淳子, 2016)。一行は1925年8月19日に日本に到着し、中国、シンガポールなどを経て1926年1月にインドに到着した。インドでの滞在を終えた後は、東南アジア、中国、日本を経由して、最終的に1926年11月末頃アメリカに帰国している。

3. 1. 東京におけるデニシヨーン舞踊団の公演

デニシヨーン舞踊団は、東京・帝国劇場において、1925年9月1日から25日までの25日間、

及び1926年10月26日から31日までの6日間、計31回の公演を行った。アジア巡演の中でも、東京での公演は最も長期間であり、巡演全体において中心的な位置を占めていたといえる。1925年の東京公演は、帝国劇場の専属女優劇との合同公演であった (武藤大祐, 2020)。チケット料金は、6円、1.5円 (デニシヨーン舞踊団のみの場合は、4円と1円) と設定されていた。一方、1926年の公演は、一行による単独公演であり、チケット料金は、7円、5円、2円と設定されていた。

3. 2. 上海におけるデニシヨーン舞踊団の公演

デニシヨーン舞踊団は、1925年10月末に中国に到着し、大連、天津、北京、上海、香港などで公演を行い、復路にあたる1926年10月には、再び上海で公演を行った。上海での公演は、オリンピック大戲院 (1925年11月16日から25日までの10日間)、オディオン大戲院 (1925年11月26日から28日までの3日間)、カールトン影戲院 (1926年10月1日から10日までの10日間) において、計29回行われた。上海公演は、すべてデニシヨーン舞踊団による単独公演であり、昼公演と夜公演の両方が実施された。昼公演のチケット料金は、1圓、2圓、3圓、夜公演は、2圓、3圓、4圓と設定されていた。

4. おわりに

上記のデータの考察から明らかになったように、デニシヨーン舞踊団の公演は、東京と上海の屈指の劇場で行われており、公演の期間、回数、劇場などの項目を通じて、その実態の一端を概観した。公演期間に差が見られるものの、公演回数に関しては、両都市で大きな差が認められない。なお、両都市におけるデニシヨーン舞踊団の公演の受容については、今後の検討課題としたい。

表1 デニシヨーン舞踊団による東京・上海公演のデータ比較

公演都市	東京		上海	
	1925年	1926年	1925年	1926年
公演劇場	帝国劇場	帝国劇場	オリンピック大戲院 オディオン大戲院	カールトン影戲院
公演期間	9月1日～25日	10月26日～31日	11月16日～28日	10月1日～10日
公演形態	合同公演	単独公演	単独公演	単独公演
公演回数	25回	6回	17回	12回
チケット料金	1.5円(1円)、 6円(4円)	2円、5円、 7円	1圓、2圓、 3圓 (昼公演)	1圓、2圓、 3圓 (昼公演)
			2圓、3圓、 4圓 (夜公演)	2圓、3圓、 4圓 (夜公演)
観客延べ人数 (推測)	約4万5000人	約1万8000人	約2万人	約1万8000人

(発表者作成)

本研究は JSPS 科研費 25K16108 の助成を受けている。